



骨髄バンク

先日、一通の封筒が届きました。「あなたに適合した患者さんがいます。ドナー提供をお願いします！」という内容でした。そうです、私は骨髄バンクにドナー登録していたのです。1年程前、友人のお母さんが白血病になりました。友人から「もしよかったらドナー登録をして欲しい…」と言われ、すぐに登録をしました。結果、私が友人のお母さんのドナーになる事はできなかったのですが、1年越しで、患者さんが見つかったのです。正直、登録の時は何とも思っていなかったのですが、いざ正式に骨髄提供をして欲しい…と伝えられると、すごく怖くなってしまいました。死亡例もないわけではないし、後遺症の問題もわずかですがあります。自分の病気であれば、リスクなんて言っていられないのですが、自分は健康で、何一つ危険を冒す必要もないのに、どうして手術をしなけれ

ばならないのだろう…そんな葛藤をずっとしていました。でも、そこで思い出したのです。先程の友人も3週間ほどでドナー提供してくれる人が見つかったのですが、その時の顔が忘れられないのです。本当にうれしそうに、私の手を思いつき握り、「ありがとね、ありがとね」って言いながら、何度も何度も握手をしてくれました。今回も、きっと私を心待ちにしてくれている人がいるんだ…そう感じたら、一気に勇気が沸いてきました。そもそも、私は神様でもないし、お医者さんでもない。一生で誰かの命を救える機会なんて、そうそうあるもんじゃありません。そう思って、決意しました。その後、正式に骨髄提供を承諾しました。その際、色々コーディネーターの方が教えてくれました。まず、骨髄提供をしてもらっても、患者さんは病気で完全に縁がきれるわけではないって事。私の中で



は骨髄提供さえしてもらえば、病気が治って、元気に走り回れるイメージでしたが、違うんですって。そこから新たな戦いが始まるそうです。要は、今までの自分の持っている血液と、まったく違う血液が作られてしまうので、拒絶反応が出てしまうそうです。しかもずっと…。だから手術後も決して、楽にはならないそうです。そんな覚悟をしても「生きたい!!」って思い、手術を決断しなければならぬ患者さん達の事を考えると、健康でいられる事の幸せを絶対に忘れてはいけな…って改めて思いました。

みんなのひとり言

危険！社長の風邪が社内に蔓延しています。気が付けば「ゴホゴホ…」おもむろにティッシュを掴んだかと思えば、思いつき「チ〜ン」(こんな可愛い音ではなく、体中の液体が鼻から出ているような音ですが…)

しかも今日で2週間ぐらい経っているのに、未だに治る気配がありません。「ちゃんと薬を飲んでいるのですか？」と聞くと「人間には治癒力があるから、薬なんか滅多に飲むものじゃないんだ！」なんて逆に説教をされています。だったらその治癒力で、ささっと風邪を治してください！いい加減、迷惑ですよ！



喜んでいただけました！のコーナー

中部ビジネスでは、昨年からインターネットショップも開設しています。そのお客様で兵庫県のお客様がいるのですが、すごく弊社の事を気に入ってくれています。一度も顔をあわせたこともなく、メールでしかやり取りをしていないのですが、弊社の考え方や、お客様に対する姿勢を理解していただいています。先日も台風被害について連絡がありました。「愛知は大丈夫でしたか？私たちも、特に

大きな被害はありませんでした。」と言って、心配までしてくださりました。なんだかすごくうれしくて、たくさん返信をしてしまいました。最近では顔が見えないことをいいことに、インターネットでの犯罪や誹謗中傷が多い中、こうやって顔が見えなくても、相手を思いやれるんだ…なんて、感じてしまいました。大切なのは、顔が見える、見えないではなく相手を思いやる気持ちがあるか、どうかなん

だなぁって再認識しました。家族だって仲間だって、毎日顔を合わせていても、相手を思いやる気持ちがなければ人間関係は上手くいきません。逆に声も聞いたことも、相手の顔を見たことが無くても、心は通じ合えるのです。どんな状況であれ、「思いやりの心」は大切にしたいな…って思いました。

今月の格言！

人の弱さがわからない人間が一番弱い人間なのよ
(瀬尾まいこ)

そのとおり！あなたよく理解しているね〜。って思ったらこの方、小説家でもあり、国語の先生でもあるんですってなるほど、説得力あるわ〜